

**タカラバイオグループ  
サステナビリティ・プラン 2025**

**2023年6月**

**タカラバイオ株式会社**

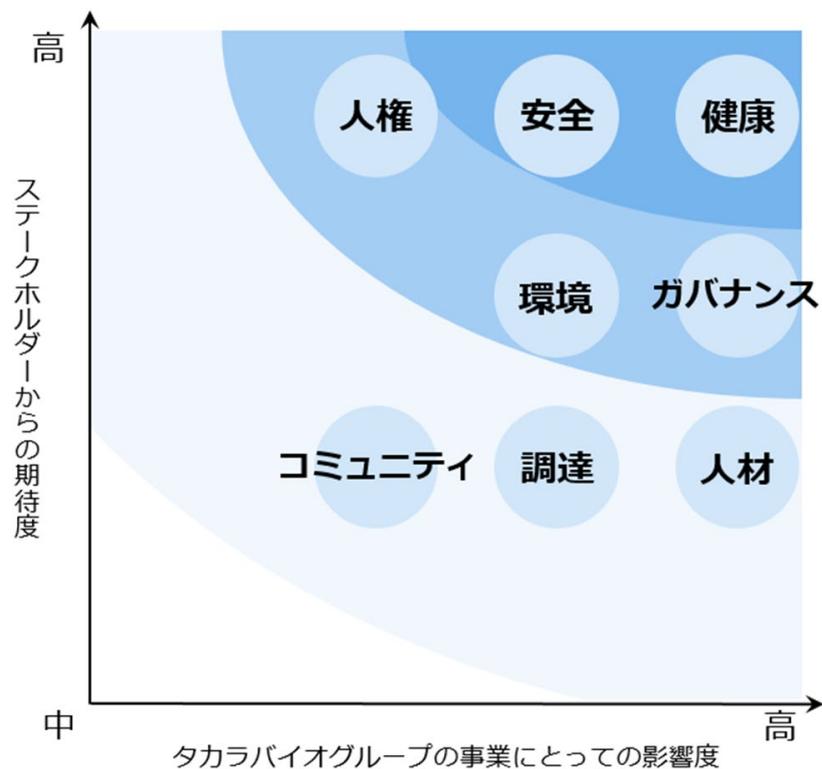
## 目次

基本方針 .....	3
健康 .....	4
安全 .....	5
ガバナンス.....	7
環境 .....	9
人権 .....	11
人材 .....	13
調達 .....	14
コミュニティ .....	15

## 基本方針

### タカラバイオグループ サステナビリティ経営推進基本方針

タカラバイオグループは、「遺伝子治療などの革新的なバイオ技術の開発を通じて人々の健康に貢献します」という企業理念のもと、中長期的な企業価値の向上の観点から、事業活動を通じて健康をはじめとするサステナビリティを巡るさまざまな社会課題に取り組み、「持続可能な社会の実現」と「タカラバイオグループの持続的な成長」の両立を目指します。取り組みにあたっては、マテリアリティを特定し、ステークホルダーの皆様との協働、宝グループとの連携によって社会課題の解決に資するよう、サステナビリティ経営を推進します。



マテリアリティ・マトリクス (2023年5月改訂)

## 健康

ライフサイエンス研究支援や遺伝子治療などの先端医療の社会実装に向けた取り組みを通じて、人々が健康的で生活を楽しむことのできる社会づくりに取り組んでいます。

### 取組みテーマと施策

テーマ：世界のライフサイエンス研究と発展への支援

施策	2025 年度達成目標	説明
ライフサイエンス研究・産業の発展を幅広く支援	グローバルで多極的な製造施設（日・米・欧・中）の整備を進め、安定的な製品供給により、ライフサイエンス研究の発展を支援する	中国の基幹工場から日・米・欧・印への各拠点に製造移管を進める
ライフサイエンスコミュニティへの貢献	① セミナー、ワークショップ開催を通じ、バイオテクノロジーの基礎から最新技術の普及を図る	・ バイオ研究者向けウェビナーを年間約 250 回開催 ・ 学会等で当社主催セミナーを開催（年間数回）
	② オープンイノベーションを通じ、アカデミアシーズの事業化を推進する	アカデミアシーズの事業化として、JAK・STAT 技術の臨床試験開始（TBI-2001）などを推進
	③ バイオテクノロジーの社会的理解の促進に努める	・ 大学や団体のセミナーへの参加（年数回） ・ 大学生向けの広報ワークショップ開催（年 1～2 回）

テーマ：遺伝子解析技術の検査や診断への応用

施策	2025 年度達成目標	説明
ウイルス等の検査・診断キットの提供	世界的に流行する感染症のウイルス検査製品に加え、世界各地の特性や需要に合わせた“グローバル”な製品開発により対象範囲を拡大する	検査対象となるウイルス・細菌種の範囲をグローバルニーズに合わせ拡大

テーマ：遺伝子治療発展への取り組み

施策	2025 年度達成目標	説明
アンメットメディカルニーズを満たす遺伝子治療関連技術開発の推進	① TBI-1301 の製造販売承認申請の準備を進め、社会実装化する	TBI-1301 の製造販売承認準備の推進
	② 再生・細胞医療・遺伝子治療製品の開発・製造を支援する CDMO 事業を推進する	多様なモダリティや大量製造に対応したサービス提供
	③ 新モダリティに対応した部素材を提供する	mRNA 製造用酵素の開発・発売

## 安全

製品やサービスを安全に利用いただくため品質に関する基本方針を定め、これを遵守し、安全の確保に努めています。

### タカラバイオ品質保証基本方針（タカラバイオグループ品質保証ポリシーより抜粋）

タカラバイオグループは、お客様の信頼と期待に応えられる、高品質な製品とサービスを提供します。

- ・ タカラバイオグループは、安全で安心な製品とサービスをお届けします。
- ・ タカラバイオグループは、法令を遵守します。
- ・ タカラバイオグループは、この基本方針を当社グループの役職員一人ひとりに周知徹底し、確実に実行します。

## 取組みテーマと施策

テーマ：安全な品質の確保

施策	2025 年度達成目標	説明
品質マネジメントシステム（ISO9001 ほか）の維持	ISO 認証を取得した事業所における ISO 認証を維持し、品質向上および顧客満足度の向上に努める。必要に応じて、ISO 認証取得範囲の拡大に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISO 認証・業許可の維持に必要な活動を継続</li> <li>・ ヒヤリハット案件のデータベース管理</li> </ul>

GMP/GCTP 等の各種品質・製造・安全基準、第三者認証制度・業許可等への適合・維持	① 事業に必要な業許可・登録等を維持する。必要に応じて、追加取得を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ISO 認証・業許可の維持に必要な活動を継続</li> <li>・ ヒヤリハット案件のデータベース管理</li> </ul>
	② 再生・細胞医療・遺伝子治療製品の上市品の品質体制および安定供給を整備し、継続的改善を行う	TBI-1301 の市販後体制の構築を推進
製品情報の適切な提供	試薬（自社製品）に関し、多様な言語（日、英、中）による SDS（セーフティー・データ・シート）の提供を 2025 年までに行う（一部の導入販売品を除く）	試薬（自社製品）の全製品に関し、多様な言語（日、英、中）による SDS（セーフティー・データ・シート）の情報提供を行う
品質重視の企業風土の醸成	「クオリティカルチャー醸成タスクフォース」を組織し、品質を重視する、意識と責任感を持つ体制（品質向上体制）を整備・維持する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 品質向上体制による継続的な改善活動を行う</li> <li>・ 重大逸脱ゼロ、ヒューマンエラーによる逸脱をゼロとする</li> </ul>

## ガバナンス

コーポレート・ガバナンスでは、持続的成長と中期的な企業価値の向上に向けて、適切なコーポレート・ガバナンスが整備されている状態を維持することを目標とし、最適なコーポレート・ガバナンス体制の構築を進めています。コンプライアンスでは、企業理念を実現させるために、役員・従業員一人一人が「コンプライアンス行動指針」に基づいた行動を徹底し、海外を含めたグループ全体でコンプライアンス推進体制を強化しています。

### 取組みテーマと施策

テーマ：コーポレート・ガバナンスの推進

施策	2025年度達成目標	説明
最適なコーポレート・ガバナンス体制の構築	持続的成長と中長期的な企業価値の向上に向けて、適切なコーポレート・ガバナンスが整備されている状態を維持し、情報開示を進める	関連当事者取引管理規程などの規程類の厳格な運用を通じ、適切なガバナンス体制を維持する

テーマ：コンプライアンスの推進

施策	2025年度達成目標	説明
コンプライアンス推進体制の強化	リスク・コンプライアンス委員会を定期的を開催する	リスク・コンプライアンス委員会の開催（年2回）
コンプライアンス教育の実施	① 「宝グループコンプライアンス行動指針」の徹底を図る	・ 職場毎のリスク・コンプライアンス教育の実施（新入社員研修、キャリア採用者研修、コンプライアンスリーダーによる職場研修、eラーニング等を毎年実施） ・ 全社員を対象とするメール誤送信対策の研修を毎年実施
	② コンプライアンスに対する役員・従業員の意識向上を図るため、職制に応じた研修を実施する（年1回）	コンプライアンス教育を実施する（年1回）

	③ コンプライアンスに係る重点テーマについての職場教育を実施する（年4回）	重点テーマに関する職場教育を実施する（年4回）
内部通報制度の適切な運用	内部通報制度を適切に運用するとともに、通報内容に対して迅速かつ適切に対応することで、法令違反や不正行為の未然防止・再発防止につなげる	コンプライアンス教育（年1回実施）を通じて内部通報制度を周知する

テーマ：リスク管理体制の強化

施策	2025年度達成目標	説明
リスクマネジメント/クライシスマネジメントの推進	① 国内外においてリスクの顕在化防止と軽減に取り組むとともに、災害等の緊急事態発生時に迅速かつ適切に対応できる体制を構築する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安全衛生委員会による毎月の職場点検・巡視活動</li> <li>・職場毎にリスク・コンプライアンスチェックリストを作成・毎年更新</li> </ul>
	② 業務災害の削減	製造業務のリスクアセスメント実施、安全対策実施
	③ 「職場点検報告書」や「リスク・コンプライアンスチェックリスト」、従業員へのヒアリング等を通じ、各社・各事業所のリスク管理状況に対するモニタリング（リスクマップ作成）を行い、リスクの顕在化防止とリスクの低減につなげる（原則年1回）	リスクマップの作成・更新（年1回）
	④ 各種防災訓練（安否確認訓練、消防訓練、AED使用訓練等）を定期的に実施する（原則年1回）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安否確認訓練（年1回）</li> <li>・消防訓練（年1回）</li> <li>・AED使用訓練（年1回）</li> <li>・その他各種防災訓練実施</li> </ul>

## 環境

環境法令・条例を順守するとともに、自然保護活動への積極的な参加や省資源・省エネルギーに努めます。研究開発ならびに原料調達から生産、物流、販売、消費に至るすべてのプロセスで発生する環境負荷削減に努めます。

### タカラバイオグループ環境方針

タカラバイオグループは、地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題のひとつとし、環境マネジメントシステムを構築して継続的な改善に取り組み、持続可能な社会づくりに貢献します。

1. 環境に関連する法令および組織が同意するその他の要求事項を順守します。
2. タカラバイオグループが行う事業活動の中、以下の項目について重点的に取り組みます。
  - ① 環境汚染の予防に努めます。
  - ② 省エネ・省資源を推進し、持続可能な資源の利用に努めます。
  - ③ 温室効果ガスの排出量を削減し、気候変動の緩和に努めます。
  - ④ 生物多様性や生態系の保護・保全に関わる活動を推進、支援します。
  - ⑤ 水使用量の削減並びに、廃棄物の発生抑制および再資源化を推進し、循環型社会の実現に貢献します。
3. 環境活動への取り組みや環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
4. 本環境方針は、教育啓発活動を通じてタカラバイオグループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。

### 取組みテーマと施策

テーマ：気候変動問題への対応

施策	2025 年度達成目標	説明
CO2 排出原単位（売上高当たりの CO2 排出量）を、2025 年度に 2018 年度比で 50% 削減する	① 省エネルギー活動や再生エネルギー等の利用を推進する	再生エネルギーの利用範囲の拡大、省エネ活動により、原単位ベースでの 50%削減を達成する

	② 地域や組織の CO2 削減活動への賛同・参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言に賛同する。</li> <li>・ 地域(例:しがCO2ネットゼロムーブメント)のCO2削減活動への賛同・参加</li> </ul>
気候変動に対する取り組みに関する情報開示の推進	TCFDフレームワークに基づく情報開示等の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Scope 3 算定・公表</li> <li>・ CDP 調査に回答</li> </ul>
環境に対する社員意識の向上	個人、職場単位で取り組み可能な省エネ、省資源活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ e ラーニング等による社員の環境教育の実施(年1回)</li> <li>・ 日常業務における省エネ、省資源活動の推進</li> <li>・ 環境 ISO 認証(ISO14001)取得・維持</li> </ul>

テーマ：環境に配慮した製品パッケージ、梱包への対応

施策	2025 年度達成目標	説明
環境に配慮した製品の開発	① 紙パッケージの森林認証紙化、ベジタブルオイルインク使用を進め、2025 年度までに 100%を目指す	新ロットの製造時から順次切り替えを進める 2025 年度までに目標を達成する
	② 片面アルミレスパッケージ製品について、2025 年度までに 100%を両面アルミレスにする	新ロットの製造時から順次切り替えを進める 2025 年度までに目標を達成する
	③ 梱包用の保冷箱をリサイクル資材を使用した発泡スチロール(リサイクル保冷箱)に変更し、2025 年まで 100%を目指す	リサイクル保冷箱への切り替え(100%)

## 人権

すべてのステークホルダーの人権を尊重し、教育・研修をはじめ様々な取り組みを進めています。

### タカラバイオグループ 人権方針

タカラバイオグループは、事業活動を通じ、従業員のみならず、取引先、お客様、地域社会など、さまざまなステークホルダーの人権に影響を及ぼす可能性を有していることを認識し、国際連合の「国際人権章典」及び国際労働機関（ILO）の「労働における基本的原則及び権利に関する宣言」に規定された人権を尊重します。

本方針はタカラバイオグループすべての役員・従業員に適用されます。また、ビジネスパートナーに対しても、本方針への支持と遵守を求めます。

1. 事業活動を行うあらゆる国において、各国の法令・規制を遵守します。
2. あらゆるステークホルダーの多様性、人格、個性を尊重し、出生、国籍、人種、民族、信条、宗教、性別、年齢、障がいの有無、性的指向、ジェンダーアイデンティティ、雇用形態、趣味、学歴などに基づく、非合理的なあらゆる差別の一切を認めません。
3. 結社の自由の権利と団体交渉の権利を支持します。違法な児童労働や強制労働は、国内外の労働環境においてこれを認めません。
4. 法令・規制や、本方針を含む社内規程の違反に関する通報窓口を社内および社外第三者機関に設置し、運営します。また、通報等の行為を理由とする通報者の不利益取扱は禁止します。
5. 従業員に対し人権方針を広く周知するとともに、継続した教育・研修を行っていきます。

### 取組みテーマと施策

テーマ：人権の尊重

施策	2025 年度達成目標	説明
多様性（性別、年齢、人種、性的指向、ジェンダーアイデンティティ、障がいの有無など）、人格、個性を尊重し、差別やハラスメントのない職場環境の維持を目指す	① 新入社員研修や階層別研修での人権や多文化理解のための学習の実施する	新入社員・階層別研修にて人権や多国籍文化に関する学習を実施する（年1回）
	② 差別のない採用活動を推進する	採用担当者向けマニュアルの改訂と関係者教育（年1回）
	③ ハラスメント防止に取り組む	ハラスメント防止規程の運用、職場毎の勉強会の実施（年1回）

	④ 個人情報・プライバシーの保護を推進する	個人情報管理規程を運用し、各部署の個人情報管理状況の調査（年1回）
--	-----------------------	-----------------------------------

テーマ：人権リスク特定に向けた取り組み

施策	2025年度達成目標	説明
人権リスクの特定・評価に向けた体制を構築し、運用を開始する	① 人権リスク対応マップの作成により状況を把握し、必要に応じた対策を講じる	人権リスク対応マップを作成・更新する。必要に応じた対策を講じる（年1回）
	② 人権方針を調達先に周知し、遵守を依頼する	1) 人権方針を策定し、ウェブサイト等に掲載し周知を進める 2) タカラバイオ（単体）の調達先への周知活動 3) アンケート実施 4) アンケート結果の評価・改善点の抽出・取引先への改善申し入れ 3)、4)は1次調達先の90%以上を目標

## 人材

人間尊重の立場に立ち、「いきいきと明るい職場、人を育む風土」をつくり、その中で企業人・社会人・個人のバランスをとれた人材」を育成することを目指しています。

### タカラバイオグループ人材方針（抜粋）

タカラバイオグループでは、人材は経営上の重要な資本と考えています。企業は社員一人ひとりが集まって成り立つ組織であり、人材の総合力が企業の持続的な成長と発展の源泉であるとの考えから、さらなる企業価値の向上とグループの成長を実現するためには、人材への投資により個人や組織の能力を最大限に引き出すことが欠かせないと考えています。

### 取組みテーマと施策

テーマ：人づくり・組織づくり

施策	2025 年度達成目標	説明
次世代リーダー・若手人材・幹部候補人材の育成	各階層別・目的別研修の実施	年 1 回実施
個人の興味・能力・適性に応じたジョブローテーション	スキルマップの作成、自己申告制度の活用、研修による適正の発掘	年 1 回実施

テーマ：多様な人材の活躍推進、快適な職場環境・ワークライフバランスの実現

施策	2025 年度達成目標	説明
育児介護と仕事の両立支援、女性活躍の推進	① 育児支援の充実	・ 社内育児サークルの立ち上げ ・ 企業連携保育園の拡充
	② 育児休暇からの復職率 100% の継続	育児休暇からの復職率 100% を維持する
傷病者支援	仕事とがん治療の両立支援、体系的なメンタルヘルスケア体制の構築	2025 年度までに体制を構築する
海外勤務者の労働環境整備	海外勤務固有の問題（物価上昇、為替変動など）に対応する	海外勤務者取扱規程を改訂する
高年齢労働者雇用制度の充実	70 歳までの継続雇用を実施する	社内規程を改定する

障がい者雇用	法定雇用率を維持する	法定雇用率を達成する採用を行う
所定外労働の削減	2022 年度実績に対し毎年 5 %削減を目指す	一人月平均 21.2 時間(定量目標)を目指す
多様な人材が能力発揮できる就業環境の整備	関連規程の見直し	ワークライフバランスを考慮した柔軟な勤務制度の制定を進める

## 調達

原材料等の安全性や品質の確保に加え、環境や人権、法・社会倫理の遵守といったサプライチェーン全体の社会的責任にも配慮することで、持続可能な調達の実現を目指しています。

### タカラバイオグループ調達方針

#### 1. 安全性と品質の確保

「タカラバイオグループ品質保証ポリシー」に則り、高い安全性と品質の確保を目指した活動を推進します。

#### 2. 環境への配慮

「タカラバイオグループ環境方針」に基づき、地球環境に配慮した活動に取り組みます。

#### 3. 人権への配慮

「タカラバイオグループ人権方針」に則り、人権に配慮した活動に取り組みます。

#### 4. 法・社会倫理の遵守

「宝グループ コンプライアンス行動指針」に則り、法・社会倫理を遵守します。調達先に接待・贈答を要請することはなく、社会常識の範囲を超える接待は受けません。

#### 5. 公平かつ公正な取引

すべての調達先に対し、良識と誠実さを持って接し、公平かつ公正な取引を行います。調達先の選定にあたっては、品質、価格、納期、技術力、供給能力などの条件に基づき、公平かつ公正に比較・評価して決定します。

#### 6. 情報セキュリティの保持

調達活動において取得した機密情報および個人情報とは適正に管理します。

#### 7. 調達先への期待

上記の内容については、調達先に対しても同等の配慮を期待し、サプライチェーン全体での取り組み推進に努めます。

## 取組みテーマと施策

テーマ：調達先との協業

施策	2025 年度達成目標	説明
持続可能な調達を行うためのガイドラインの制定・運用	① 調達方針、調達ガイドラインを策定し、調達先に周知するとともに、遵守を依頼する ② 調達先の状況を調査し、必要に応じ改善を依頼する	1) 調達方針、調達ガイドラインを策定し、ウェブサイト等に掲載し周知を進める 2) タカラバイオ（単体）の調達先への周知活動 3) アンケート実施 4) アンケート結果の評価・改善点の抽出・取引先への改善申し入れる ※ 3)、4)は 1 次調達先の 90%以上を目標

## コミュニティ

地域コミュニティとの交流を通して、地域の発展や活性化への貢献を目指しています。また、教育および学術支援を通じ、ライフサイエンス産業の発展を目指した活動を進めています。

## 取組みテーマと施策

テーマ：次世代/地域社会への支援

施策	2025 年度達成目標	説明
地域の教育機関への出前授業・講演等の実施	① 近隣の教育機関を対象に、ライフサイエンスや次世代のキャリアプラン設計に関わる講演・出前授業などを継続的に実施する	・ 大学生向け広報ワークショップ（年 1 回） ・ 小学生向け出前授業（年 1 回）
	② 地域で行われる清掃活動へのボランティア参加や地域イベントの協賛などへの参加・協力を継続して実施する	機会に応じ柔軟に対応

テーマ：大規模災害時の被災者・地域への支援

施策	2025 年度達成目標	説明
被災地域への義援金拠出や給水活動、ボランティア活動	大規模災害が発生した際の給水活動やボランティア派遣などの支援活動を実施する	機会に応じ柔軟に対応

以上